

Cかもめ

施設訪問教育
病弱教育部門
小・中学部

オンライン交流

◎神奈川県リハビリテーション病院に入院している児童生徒の授業保障を行っている。

【取り組み1】復学先の学校とのオンライン交流

- ①新入生の児童に対して、復学する前に学校案内や教員紹介をしてもらった。事前に用意していた自己紹介カードを見せたり、相手の質問に答えたりすることができた。
- ②小2児童は復学先の音楽の授業に参加し、キーボード演奏をすることができた。

【評価】

- ・復学先とのオンライン交流は、先生や友だちと顔を見ながら交流ができ、安心した表情で参加できた。予め復学先の先生と交流内容を相談することで当日もスムーズに進行できた。

【取り組み2】地域の中学校とオンラインコンサートでの交流

秦野市立南が丘中学校の吹奏楽部の演奏を視聴した。

【評価】

- ・オンラインコンサートでの交流は、病棟に入院されている方々と手拍子やアンコールをする等、同じ空間でコンサートの雰囲気を楽しむことができた。事前の接続テストや音響確認がとても重要である。

【取り組み3】オンライン授業

一時退院中の生徒と Zoom アプリを用いてオンライン授業を行った。授業で用いる資料を画面共有の機能を使ってわかりやすく提示した。

【評価】

- ・オンライン授業では、画面共有の機能を使って作成した資料を、より見やすく提示できたことが生徒からも好評だった。資料の見やすさがアップしたことで、授業内容により集中することができた。

Cかもめ

ロボットプログラミング選手権

◎Proro というプログラミングロボットを活用し、PCでプログラムを作成し、ロボット相撲を行う大会である。事前にプログラミングをしたデータを使って大会に参加することができる。

【取り組み】

- ・小学5年生、6年生、中学2年生によるチームを組み、それぞれニックネームやチーム名を決めて大会に臨んだ。
- ・授業中に個々の児童生徒がプログラムを作成した。プログラミング用のソフトを用いて、ロボットの動き方を教師と確認しながら細かいプログラム作りを行った。スタート位置やスタートの順番等も個々で選択して決定した。

【評価】

- ・普段は会えない全国の病気療養中の児童生徒と時間や場所を共有することができた。
- ・自分で組んだプログラムが遠隔的に動く面白さを体感し、喜びの表情が見られた。
- ・他の児童生徒と一緒に観戦することで一体感が生まれ、会話が増えた。
- ・後から入院した生徒が大会を視聴し、「やってみたい」という意欲的な声が聞けた。